

平成23年度第2回愛知県周産期医療協議会

議 事 要 約

日時：平成23年10月28日（金） 午後3時から午後5時

場所：愛知県自治センター12階 E会議室

委員

出席者：飯尾委員、石川委員、石田委員、一木委員、岩田委員、上村委員、岡田（節）委員、小口委員、可世木委員、加藤（稲）委員、加藤（有）委員、加藤（紀）委員、木村委員、後藤委員（代理 鶴飼主任主査）、小山委員、榊原委員、柴田（和）委員、柴田（金）委員、鈴木委員、田中委員、寺澤委員、西村委員、小谷委員、二村委員、北條委員（代理 岡田先生）、柵木委員、松澤委員、森川委員、山崎委員

欠席者：なし

事務局

出席者：愛知県健康福祉部医務国保課主幹（救急・周産期）、名古屋第一赤十字病院小児保健科部長、安城更生病院母体胎児センター長

欠席者：愛知県健康福祉部医務国保課長

オブザーバー

出席者：中島先生、家田先生、山本（ひ）先生、河井先生、林先生、福田先生、松原先生、早川先生、大野先生、吉田先生、樋口先生

欠席者：山本（恭）先生、鈴森先生、篠原先生、関谷先生

司会者：名古屋第一赤十字病院小児保健科部長

議長：石川会長

1 石川会長あいさつ

2 新任委員・事務局紹介あいさつ

加藤（紀）委員・戸田先生（事務局）あいさつ

3 議事

（1）平成23年度愛知県周産期医療情報システムについて

今年度は、特に変更はない。

ホームページについては、研修会等参加登録が可能となっていたが、現在不可能なため今後機能の改善を図りたいと考えており、詳しくは当院の専門相談研修会のところで報告する。

（2）平成23年度専門相談研修会等の報告及び今後の予定について

1）今年度実施施設について

今年度も前年度と同じように専門相談研修会を持ち回りで実施することになっている。それから今年度からは新生児心肺蘇生法講習会の補助を始めている。今年度の専門相談研修会の実施施設であるが、1回15万円の予算で、名古屋第一赤十字病院、公立陶生病院、小牧市民病院、半田市立半田病院、岡崎市民病院、安城更生病院となっている。

それから新生児心肺蘇生法講習会の予算は1回15万円で年間6回を計上している。平成23年度からの新規事業であるが、講習会を予定し予算措置が必要な場合は事務局まで連絡願いたい。予算残額を確認し、補助対象の可否を連絡する。年間6回を目安としているが、予算上余剰があれば7回目以降も補助の対象とすることができる。

院内職員向けの講習会には補助を出すことはできないので、院外の先生等を対象とした講習会に補助を出したいと考えているのでよろしく願いたい。

また、専門相談研修事業において、これまでテキスト代や本代などに関して予算措置はなるべく行わないようにしてきたので、インストラクターのテキスト代やDVD代などに関しては補助の対象から外させていただくので、蘇生法講習会用具のレンタルセットであるとか講師代等に補助したいと考えているのでよろしく願いたい。

2) 既に行われた研修会等について

- ・ 今年度は安城更生病院が平成23年9月10日(土)に新生児心肺蘇生法講習会を開催しており、報告をいただいている。これは予算措置をしていないので、予算に余剰はある。

3) 今後の開催予定について

- ・ 専門相談研修会は、平成23年11月5日(土)に安城更生病院、平成23年11月19日(土)は半田市立半田病院、平成24年1月21日(土)に名古屋第一赤十字病院、平成24年3月24日(土)に名古屋第二赤十字病院が開催を予定。
- ・ 平成24年3月24日(土)の名古屋第二赤十字病院予定分については、昨年度予定していたが東日本大震災の影響により延期となった分のため、今年度予算措置の対象としたい。
- ・ 新生児心肺蘇生法講習会は、平成23年11月19日(土)に小牧市民病院、平成23年11月26日(土)に公立陶生病院が専門相談事業を兼ねてBコースを予定。それから平成23年12月17日(土)名古屋第一赤十字病院で専門コースのAコースを予定しており、こちらは予算措置をする。平成23年12月18日(日)に同じく名古屋第一赤十字病院でBコースを予定しているが、こちらは予算措置をしないで開催を予定。

【質疑応答等】

- ・ 予算措置をするのは、一般公募を行ったNCPRということでよいか。
そのとおりである。
- ・ 今年度予算措置が講じられるのは、資料の中のうちどれか。
小牧市民病院、公立陶生病院、名古屋第一赤十字病院の12月17日(土)のものである。
- ・ 安城更生病院では、11月の最初の土曜日に総合周産期母子医療センターになったことから、西三河を中心に母体搬送・新生児搬送をしていただける周産期施設の先生方にお集まりいただき、1年間の経過報告を兼ねて実施予定である。同時に埼玉医科大学の板倉先生の講演会を企画した。時間があれば参加していただきたい。
- ・ 資料 2-4、1月24日(土)に名古屋第一赤十字病院で周産期医療従事者研修会を予定。講師として名大の杉浦先生をお招きして、昨年度から導入したi-Phoneをもう一度周知徹底したいという主旨で行う。せっかく愛知県内で100台近く契約していただいているので使い方の周知徹底と改善点を議論したい。

(3) 平成23年度愛知県周産期医療調査・研究事業の中間報告について

中間報告

【愛知県における新生児外科系疾患(含、先天性心疾患)の実態調査研究】

あいち小児保健医療総合センター 副センター長 上村 治

あいち小児保健医療総合センター センター長 前田 正信

- ・ 資料 3 - 1による報告
- ・ 調査研究のデザインや目的については、前回、前々回の協議会において説明させていただいたため、調査対象について説明する。2010年度1年間に出生した子で、1ヶ月以内に調査実施施設のNICUあるいはそれに準ずる病棟に入院した患者で、以下の基準を満たす全患者を調査対象とする。ただし、患者の居住地にはこだわらず、他都道府県からの母体搬送、新生児搬送症例も含むということで、その1) 2) 3)を満たす患者である。外科系の患者で、手術をしたということに限るわけではなく手術の可能性があって入院した患者さんも含む。その疾患の治療目的で他の施設に転送したものについては、その転送先からアンケートに答えていただくこととなった。それから複数の疾患を持っていて、ある施設で報告していただいて、また、別の施設に移ったら、移った先で報告していただくという計算の仕方になっている。
- ・ 調査方法は、愛知県内の新生児を扱っていると考えられる施設ということで、基本はWAMネットで調べた愛知県内の41施設にアンケートを送らせていただいた。形としては施設調査と症例調査の2段階となっている。
- ・ 現時点で回答をいただいているのが41施設中22施設。まだ、回答いただいていない施設については、11月に入ったら送らせていただいた先生方に直接電話させていただいて回収率をできるだけ100%に近づけたいと考えている。
- ・ 回答いただいた22施設の中で新生児外科系疾患の有無については、有り11施設、無し11施設の半々であった。22施設の中で新生児外科系疾患の総数は182症例であった。詳細は今後解析し報告させていただきます。

【質疑応答】

- ・ 10年位前に長屋先生が愛知県内の新生児外科系疾患の調査を実施されたが、そのときの症例数は年間どれぐらいだったか。
正確に覚えていないが、200~300例だったかと思う。
- ・ 182例のうち先天性心疾患はどれぐらいなのか。
まだ、そこまで取りまとめていない。

【産科施設における「いわゆる正常新生児」の管理実態および新生児の急変症例に関する調査】

豊橋市民病院 小児科 小山 典久

名古屋第一赤十字病院 小児保健科 大城 誠

- ・ 資料 3 - 2による報告
- ・ いわゆる正常新生児は、母体の付属物となっているが必ずしも本当の正常ではないこともあり注意が必要で、それに対する実態を把握して、どのように管理するのが良いのか、そのためにはどれくらい

の労力を要しているのに対して対価を求めたいということと、実態を把握することで不幸な転帰を減らせないかとか、不要な訴訟を減らせないかと考えている調査で、決して施設の対応を非難しようとして行う調査ではない。

- ・ 154 の県内の分娩取り扱い施設にアンケートを送付し、10月11日現在で104施設から回答をいただいた。いわゆる正常新生児と考えられた新生児数が3年間で128,384例あり、その中で、出生時の一連の蘇生が終わった段階でこの患者さんは特に問題ないと判断した正常新生児の中で7例の急変例がこの段階で把握できている。それが2枚目の裏面急変事例7例の概要である。在胎週数は36週4日から41週3日の患者さんで中央値は39週と6日であった。出生体重はすべて2,500グラムを超えていた。分娩状況は吸引分娩が1例あったが、すべて経膈分娩であった。1分Apgarはすべて8点以上であった。出生後急変時間は、1時間26分から15日というものであった。発見場所は、分娩室3例、新生児室2例、病室1例、沐浴槽1例で、発見者は看護師6例、母親1例であった。発見時モニターは、7例中3例がモニター使用中で、無しが4例であった。転帰は、死亡が1例、不明が1例、後遺症なしで生存が2例、後遺症ありで生存が2例、後遺症不明の生存が1名であった。最終診断は、SIDSが1例、心臓奇形が1例、低血糖が1例、不明が4例であった。監視状況や細かな管理状況については、円グラフのとおりである。あくまでも中間報告であるので細かなところはグラフで確認いただきたい。
- ・ 今回NCP Rのスタッフについても調べ、インストラクターは16施設、受講者は68施設でいることがわかった。
- ・ 急変事例7例のうち6例が2010年の事例となっており、古い急変事例が報告されていないのかもしれないという危惧がある。
- ・ 分娩数とか病的新生児数が統計が大変だったせいか、空欄で戻ってきている回答があった。回収率が現在63%台なので、回収率をもう少し上げたい。急変例の数だけでも正確に実態を把握したい。
- ・ 今後の方向としては、急変例について不明な点がある症例があるので二次調査という形で、事実を確認させていただく予定としている。

【質疑応答等】

- ・ 出生直後のカンガルーケアというのは設問項目に入っているか。
出生直後にカンガルーケアをやっているかというのは入っていない。
- ・ 出生直後にカンガルーケアをやっているかということと、やり始めているならいつからやり始めているのかというのを聞くと、もう少し年での差が明確になってくるかもしれない。
今からアンケートの内容を練り直すということは考えていないので、もしそのあたりのクローズアップが必要であれば、二次調査で実態がどうであったか確認ができるのではないかと考えている。カンガルーケアのときにすべて急変しているわけではないので、そこにこだわってカンガルーケアが良いとか悪いとか言う議論になってしまうのは、今回のアンケートでは避けたほうが良いのではないかと率直に考えている。
- ・ 古い症例の急変例が少ないという話だが、過去の症例を拾うのは非常に難しい。記憶に頼る部分が出てくるので。できれば、続けて調査をするという形にすれば、数字が出てくるのではないかと。
ご意見ありがとうございます。
- ・ 急変例の7例は、開業施設が多いのか、基幹病院が多いのかどちらなのか？

どちらにもある。

- ・ 平均的にあるということか。

どこにでも起こりうるということである。

(4) 平成23年度特別講演・調査研究報告会について

- ・ 資料 4 による報告

- ・ 平成23年12月17日(土)に名古屋第一赤十字病院 内ヶ島講堂で行う。昨年度の調査研究事業の報告会を3題と、特別講演会として京都医療科学大学の 大野和子先生に「周産期医療に関わる者が知っておくべき被ばくの基礎知識」と題して講演していただくので、興味のある方は参加願いたい。

< 次回医療協議会開催について >

* 平成23年度第3回周産期医療協議会を、平成24年3月23日(金)「名古屋第一赤十字病院 内ヶ島講堂」にて開催します。